「第5次坂戸市子ども読書活動推進計画（令和8年度～令和12年度）」の素案に対する意見・提案とその対応

1　市民コメント　3件（3名）

No.	頁	意　見　・　要　望	対応とその考え方
1	―	私は坂戸市千代田で生まれ育ち、一時期約10年間東京都内で生活した後、最近地元に戻ってきました。その中で大変驚いたことがあります。千代田児童センター(児童館)の図書コーナーを利用した際、蔵書の多くが私が小学生だった頃から置かれている本であり、確認した限りでは昭和60年前後に発行された本が数多く並んでいました。約40年前の本が現在も多く利用されている状況に驚きを感じました。 東京都内で利用していた児童館では、新刊や人気の児童書、学習漫画などが定期的に入れ替えられており、子どもたちは本に興味を持ち、楽しそうに読書をしていました。一方、千代田児童センターの職員の方からは「坂戸市の子どもはあまり本を読まない」とのお話がありました。しかし、私は「子どもが本を読まない」のではなく、「子どもが手に取りたくなる本が十分にそろっていない」ことも大きな要因ではないかと感じています。 また、学習漫画についても、学習指導要領はこれまで何度も改訂されており、内容が現在の教育内容と一致しないものも少なくありません。さらに、衛生面の観点からも、長年利用され続けた色あせた本よりも、清潔で新しい本の方が子どもたちは安心して手に取りやすいと考えます。読書は、語彙力や読解力、思考力、想像力を育む教育の基盤であり、子どもの成長に欠かせないものです。そのため、市内の児童館や教育施設に配架されている図書については、計画的に蔵書を更新し、最新の児童書や学習漫画、人気シリーズなどを積極的に導入していただきたいと思います。 未来を担う子どもたちの学びの環境を充実させるためにも、坂戸市として蔵書の現状を点検し、計画的な更新を進めていただくよう強く要望いたします。	子どもが本に興味を持つきっかけとして、魅力的な本を書架に並べることは重要と考えております。本計画における「第2部第1章　2地域における推進(2)児童センター、その他施設における推進」（P11～12）に沿って、団体貸出制度を活用し、児童センターにも図書館の本を提供するなどして、利用の啓発や定期的な本の入替えを進めてまいります。 学習漫画については、歴史や社会科学分野、自然科学分野等を網羅する入門の要素がありますので、子どもたちにとって苦手意識なく受け入れられる傾向にあります。そのため、興味関心を持つ導入要素として、計画的に購入し図書館にて提供を進めてまいります。 また、利用が多いこと等により状態の悪くなった本については、現在も買替えをしておりますが、今後も継続して進めてまいります。
2	―	他の県や市町村で行われている“読書通帳”なるものをとり入れてはどうでしょう？ 銀行の通帳みたいなもので （型も） 図書館で借りた本のタイトルや貸出日、本の価格などを記録できるものです。 子供は“自分の通帳”としてうれしいと思うし、記録が残ってどんどん増えるのも楽しいと思います。（これは大人も作りたいです） 読んだ本をノートに記録している人は多いと思うので、とり入れてくれたらもっと図書館の利用も増えると思います ぜひご考慮ください！	読書通帳は、子どもたちが読んだ本の記録を「通帳に記帳する」楽しさを感じながら、本を読む意欲を高めていくことができます。読書習慣を身につけてもらう一助にもなると考えており、いただきました御意見・御提案につきましては、今後北坂戸地区多世代交流拠点施設内の「こども図書館」開館にあわせて内容の参考にさせていただきます。
3	―	スマートフォン（Web）と本の共存を考えたとき、視覚から入るWebを、実際の文字で考察させる取り組みがあっても良いと思う。例えばWebからの「情報」を文字印刷されたものや、出所がはっきりしたもので検証させる、また「動画」等で知ったものを本で考え、想像しながら確認読みする。 これまで映画やテレビで見たものを同じように本で検証していたように本のメリット、迫力を楽しめるようにすると幾ばくか読書が促進されるのではないか。	電子媒体やAI（人工知能）の活用は、子どもにとっても身近で当たり前になってきており、そのような中で「情報を探し出し、理解し、参照し、考える」力を育んでいくことが求められます。 図書館では、紙の本・電子書籍・Web等それぞれの利点を生かし、一つのものに偏らずに活用できるよう、「図書館を使った調べる学習コンクール」事業を実施しております。 本計画の「第2部第1章　3学校等における推進　(2) 小・中学校における推進」（P13～16）に沿って、いただいた御意見を参考に、今後も子どもの想像力を養い自発的な思考を促すことのできるよう、資料整備や事業の企画運営を進めてまいります。